

法と経済学研究

2024年度
麻生良文

講義計画

- [9/23] イントロダクション, Online授業
- [9/30] ミクロ経済学の基礎
- [10/07, 14] 外部性とコースの定理 (2回)
- [10/21] 所有権の経済分析
- [10/28, 11/11] 知的財産権の経済分析 (2回)
- [11/18, 25] 契約法の経済分析 (2回)
- [12/02, 09, 16] 不法行為の経済分析 (3回)
- [12/23] 刑法の経済分析
- [1/06, 20] 学生による報告 (都市景観, 土地利用規制に関する論文を予定)

参考文献

- Robert D. Cooter and Thomas S. Ullen, Law and Economics(5th ed.), Pearson Education , 2007
(邦訳) クーター, ユーレン『法と経済学』, 大田勝造(訳), 商事法務, 1990年 (2nd ed.の翻訳)
- Thomas J. Miceli, Economics of the Law, Oxford Univ. Press, 1997
- スティーブン・シャベル『法と経済学』日本経済新聞社, 2010年
- 麻生良文『公共経済学』有斐閣, 1998年
- 麻生良文『ミクロ経済学入門』ミネルヴァ書房, 2012年
- 矢野誠『ミクロ経済学の応用』岩波書店

講義ノ一卜

- <http://fs1.law.keio.ac.jp/~aso/>
- e-mail : yoaso@keio.jp

イントロダクション

法と経済学

- 法律の根拠，あり方を経済学的に分析

考え方，特徴

- 当事者の合理的行動を前提にしたモデルで分析
- ミクロ経済学の応用
 - 外部性，コースの定理が重要
- 法律・制度が当事者のインセンティブをどう変えるか
- 効率性（社会的費用最小化）を実現するためにはどのような法律・制度が望ましいか
 - 法律学者の議論は事後的な公平性に注意が集中しているかもしれない→それは当事者の行動を変化させ，効率性を実現しないかもしれない

講義の概要

以下は、講義の概要

- ミクロ経済の基礎
 - 価格メカニズムの役割
 - 消費者余剰，生産者余剰
 - 市場の失敗と政府の役割
 - 公共財，外部性，独占，情報の非対称性
- 外部性とコースの定理
 - 外部性
 - コースの定理
 - コースの定理の含意

所有権，知的財産権の経済分析

- 所有権の意義
- 所有権の設定
 - 社会的費用の最小化
 - 取引費用
- 所有権の対象
 - 公共財と私的財
- 知的財産権
 - 発明・発見→公共財
 - 事後的には無料で使用させた方が望ましい
 - しかし，そうすると開発者は開発費用を回収できない
 - 開発のインセンティブと効率性のトレードオフ
 - どのような制度設計が望ましいのか？

契約法の経済分析

- 契約違反
 - 損害賠償の計算方法
 - 救済方法の種類
- 契約違反の救済方法と予防行動
 - 効率的な救済方法
 - 一方向モデル
 - 双方向モデル

社会的費用を最小化するようなルールはどうあるべきか？

不法行為の経済分析

- 不法行為とは
- 基本的な事故モデル（1方向モデル）
 - 損害賠償
 - 最適な予防行動
 - 過失責任
- 双方向モデル
 - 責任ルールの形態
 - 運営費用
- 応用
 - 交通事故，医療ミス，製造物責任法

交通事故の損害賠償のあり方 → 交通事故に関わる費用（事故の直接的被害だけでなく，予防活動を含んだ費用）を最小化するためには，損害賠償ルールをどのように設計すればよいか？

刑法の経済分析

- 合理的犯罪のモデル
- 最適抑止と効率的な刑罰
- 麻薬
- 刑法の伝統的な理論

犯罪者は合理的に行動するとして，社会的費用を最小化するような刑罰のあり方を考察

都市・環境問題

- 都市景観の規制
 - 外部性の問題
 - 景観の所有権とコースの定理
- 土地利用規制
- 土地税制
- 公共事業の土地収用問題